



ペアレント・メンターの応用研修
および全国実態調査
報告書

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人 日本ペアレント・メンター研究会

目 次

1. 当法人について
2. 2014 年度の事業目的
3. 2014 年度応用研修報告
4. 2014 年度全国実態調査進捗状況
5. 今後の課題
6. 最後に

1. 当法人について

特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会は、発達障害者の家族支援を担うペアレント・メンターの育成や日本全国でのペアレント・メンター活動を推進する事業，をもとに日本全国でその地域の特性を活かしたペアレント・メンター活動に寄与することを目的として設立された。また当法人は，このような事業を通して，日本ならびに世界において取り組まれている家族支援プログラムの現状を把握し，日本における次世代を見据えた家族支援プログラムの開発ならびに普及を図ることを目指している。

当法人のメンバーは全国各地のペアレント・メンター養成講座の講師をはじめ，各地のペアレント・メンター事業展開のサポートのかたわら，各地における発達障害および家族支援における研修，活動などを行っている。

法人全体としての主な事業展開としては以下の点を考えている。

- ・ペアレント・メンター活動及び発達障害者やその家族への支援への理解の啓発を行う
- ・各地におけるペアレント・メンター養成研修への各種講座への開催協力
- ・ペアレント・メンター養成研修にかかわるインストラクター研修の実施，およびコーディネーター研修の企画および開催
- ・各地域におけるペアレント・メンター活動の現状の把握および後方支援

2. 2014 年度の事業目的

日本ペアレント・メンター研究会の構成員は愛知県自閉症協会の応用研修のプログラム開発および研修講師を5年に渡り行ってきた。愛知県においては、県予算で開催される運びとなり、応用研修を予算化できる見込みとなった。しかしながら、他地域からも応用研修に参加しているペアレント・メンターはいるものの、全国各地を見渡すと、地域で養成研修後の研鑽の場がほとんどない地域や、ペアレント・メンター活動が活性化されていない地域も少なくない。この5年間のマニュアルを整備し、他地域においてペアレント・メンター養成研修後の研鑽の場を提供し、地域におけるペアレント・メンター事業の活性化を目指すことを2014年度の事業目的とする。また、各地域の現状に合わせた研修や活動を考えるために、各県、政令市の行政や発達障害者支援センターに聞き取り調査を実施し、現状把握をする。

1) 研修

① 研修実施, そのねらい

これまで愛知県で実施してきた応用研修をベースに大阪・福岡の2地域で、地域の支援機関と連携してペアレント・メンター養成研修実施後の研修として応用研修を実施し、各地域でペアレント・メンター養成研修後の継続研修を実施できる素地をつくることを目的とする。

② 当該地域の支援機関との協働

大阪では、地域の専門家をスタッフとして招聘し、今後の継続研修の担い手となるようにマネジメントした。また、関西地域の行政や支援機関の方に見学してもらい情報交換を行った。福岡でも、大阪同様に地域の専門家をスタッフとして招聘し、今後の継続研修の担い手となるようにマネジメントし、福岡近隣の地域の行政や支援機関の方に見学してもらい情報交換を行った。また、福岡市発達障害者支援センターには共催、北九州市発達障害者支援センターには後援してもらい、福岡市発達障害者支援センターの職員はスタッフとして参加してもらった。

2) 全国実態調査

① 調査の目的

各地域の現状に合わせた研修や活動を考えるために、各県、政令市の行政や発達障害者支援センターに聞き取り調査を実施し、現状把握をすることを目的とする

② 2014 年度において調査完了地域

2014 年度末における聞き取り調査の実施が完了した地域は 34 箇所である。

③ 今後の予定

本調査は2カ年計画であるため、2015年度は聞き取り調査未実施の地域に調査を実施する。

3) 発表

2014 年度 10 月に第 55 回児童青年精神医学会で、ペアレント・メンター活動の実態とメンターの意識に関する調査を発表した。また、ペアレント・メンターに関する学術論文を、精神保健研究と自閉症スペクトラム研究に計 2 本発表した。

3. 2014 年度応用研修報告

1) 研修について

応用研修は一日を公開講座，二日目を「未就学の支援について」とし，計2日間で開催した。なお，参加者の家庭状況を加味し，いずれか一日のみの参加も可能とし，開催地以外に当該地域を対象として各発達障害者支援センターの協力を得て，各地のペアレント・メンターへの告知を行った。

2) 研修内容

【ペアレント・メンター応用研修：大阪会場】

1 日目 公開講座

時 間	内 容	
13:00～13:30	当講座，ペアレント・メンターについて	:30
13:30～14:30	“できる”を伸ばす行動の見方～『ほめる』を考える ペアレント・トレーニングのエッセンスから	1:00
14:50～15:50	発達障害の家族支援	1:20
16:00～16:20	きょうだい支援について	

2 日目 「未就学の支援について」

時 間	内 容	
9:30～11:30	就学前の支援(講義)	2:00
9:30～10:50 11:00～11:30	就学前の相談ニーズ 就学前相談の留意点	
11:30～13:00	昼食	
13:00～15:00	就学前の支援(演習)	2:00
15:00～15:30	グループ発表	:30
15:30～16:00	質疑応答・受講証明書授与	:30
13:00～14:00	お医者さんとの上手な付き合い方	1:00

- 日 時 平成 26 年 9 月 27 日 (土) 13:00～16:20
平成 26 年 9 月 28 日 (日) 9:30～16:00
- 会 場 大阪研修センター江坂 (吹田市江坂町 1-13-41 SR 江坂ビル 4・5F)
- 研 修 名 ペアレント・メンター応用研修および一般公開講座
- 主 催 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
- 内 容 ①発達障害の家族支援およびペアレント・トレーニング (一般含 27 日)
②ペアレント・メンター研修修了者に対するスキルアップ (メンターのみ 28 日)
- 講師・インストラクター
佐藤克敏 (京都教育大学)，式部陽子 (奈良教育大学)
井上雅彦 (鳥取大学)，小倉正義 (鳴門教育大学)，
原口英之 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)
加藤永歳 (日本発達障害ネットワーク)

竹澤大史(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所),
加藤香 (NPO 法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

7. 公開講座演者 (登壇順)

小倉正義 (鳴門教育大学), 加藤永歳 (日本発達障害ネットワーク),
井上雅彦 (鳥取大学), 加藤香 (NPO 法人愛知県自閉症協会・つぼみの会)

8. 参加者 ①一般公開講座 91名

内訳: 一般 69名, 見学 3名, ペアレント・メンター19名

②ペアレント・メンター応用研修

27日参加 19名 (うち大阪府のペアレント・メンター11名), 見学 3名

28日参加 21名 (うち福岡市のペアレント・メンター12名), 見学 3名

【ペアレント・メンター応用研修: 福岡会場】

1日目 「未就学の支援について」

時間	内容	
10:00~12:00 10:00~11:20 11:30~12:00	就学前の支援(講義) 就学前の相談ニーズ 就学前相談の留意点	2:00
12:00~13:30	昼食	
13:30~15:30	就学前の支援(演習)	2:00
15:30~16:00	グループ発表	:30
16:00~16:30	質疑応答・受講証明書授与	:30

2日目 公開講座

時間	内容	
10:00~10:30	当講座, ペアレント・メンターについて	:30
10:40~11:40	発達障害の家族への支援	1:20
11:40~12:00	きょうだい支援について	

- 日時 平成 27 年 2 月 14 日 (土) 10:00~16:30
平成 27 年 2 月 15 日 (日) 10:00~14:00
- 会場 ふくふくプラザ 福岡市市民福祉プラザ (福岡市中央区荒戸 3 丁目 3 番 39 号)
- 研修名 ペアレント・メンター応用研修および一般公開講座
- 主催 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
共催 社会福祉法人 福岡市社会福祉事業団 (福岡市発達障がい者支援センター)
後援 北九州市発達障害者支援センター つばさ
- 内容 ①ペアレント・メンター研修修了者に対するスキルアップ (メンターのみ 14 日)
②発達障害の家族への支援および医療機関との上手な付き合い方 (一般含 15 日)
- 講師・インストラクター
納富恵子・倉光晃子 (福岡教育大学)
緒方よしみ・坂口美由紀・橋本文・池隅美香 (ゆうゆうセンター)
井上雅彦 (鳥取大学), 小倉正義 (鳴門教育大学),

原口英之（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所），
加藤永歳（日本発達障害ネットワーク）
加藤香（NPO 法人愛知県自閉症協会・つぼみの会）

7. 公開講座演者（登壇順）

井上雅彦（鳥取大学），江口寧子（NPO 法人それいゆ）
吉川徹（愛知県心身障害者コロニー中央病院），

8. 参加者

①ペアレント・メンター応用研修

14日参加 21名（うち福岡市のペアレント・メンター12名），見学3名

15日参加 17名（うち福岡市のペアレント・メンター10名），見学2名

②一般公開講座 152名

内訳：一般129名，招待4名，見学2名（上記①）

ペアレント・メンター17名（上記①）

3)情報交換会

応用研修開催時，対象地域の行政・発達障害者支援センターを対象に情報交換会を行った。開催時間は応用研修演習時間と同時進行とし，他県，他市の状況，課題点などを共有し，地域同士のつながりを作るよう促した。

【ペアレント・メンター事業情報交換会：大阪会場】

1. 日 時 平成26年9月28日（日）13:20～15:00
2. 会 場 大阪研修センター江坂
3. 担 当 井上雅彦・小倉正義・加藤香
4. 参加者 8名（大阪府行政，大阪府発達障害者支援センター，京都府行政，京都府発達障害者支援センター，奈良県発達障害者支援センター，和歌山県行政，滋賀県発達障害者支援センター，近江八幡市行政）

【ペアレント・メンター事業情報交換会：福岡会場】

1. 日 時 平成27年2月14日（土）14:00～15:30
2. 会 場 ふくふくプラザ 福岡市市民福祉プラザ
3. 担 当 井上雅彦・小倉正義・加藤香
4. 参加者 5名（福岡市行政，福岡市発達障害者支援センター，北九州市発達障害者支援センター，山口県発達障害者支援センター）

4)各種アンケート結果

1. 事前アンケート

ペアレント・メンター応用研修参加者（大阪21名，福岡21名）に対し，就学前のお子さんについての相談の頻度・困難度について尋ねた。頻度については，「ない」から「よくある」の5件法で，困難度について「容易」から「困難」の5件法で，それぞれ回答を求めた。

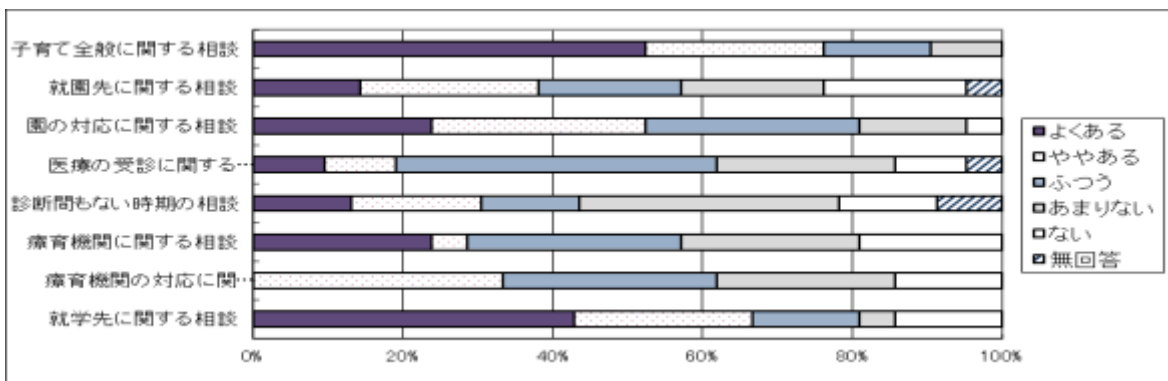
結果から，相談の頻度については，全体的な傾向としては，「子育て全般に関する相談」（「よくある」「ややある」の人数…大阪16名，福岡11名）「就学先に関する相談」（「よくある」「や

やある」の人数…大阪 14 名, 福岡 12 名) の相談頻度が高いとしたメンターの人数が多かった。また、大阪に比べて福岡では、「医療の受診に関する相談」の相談頻度が高いとしたメンターの人数が多いことがわかれ、地域による相談事の頻度の特性がある可能性がうかがわれた。

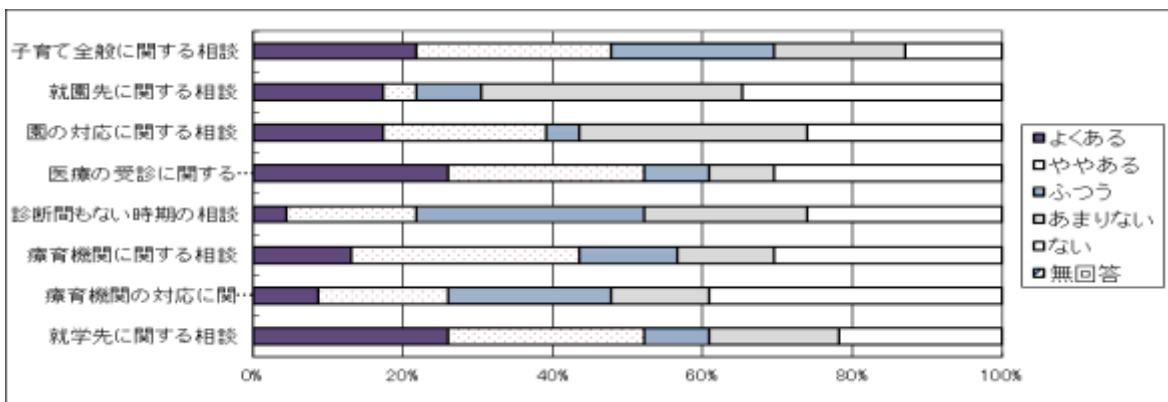
また、困難度に関しては、相談事の違いによる顕著な差はみうけられなかったが、全般的に大阪よりも福岡のメンターのほうが困難さを感じている可能性がうかがわれた。大阪の応用研修に参加したメンターは大阪府のメンターが多く、大阪は 2014 年度に養成研修を行ったばかりであるので、これからメンターとしての活動を始めるところであることが関連している可能性がある。

○頻度

*大阪

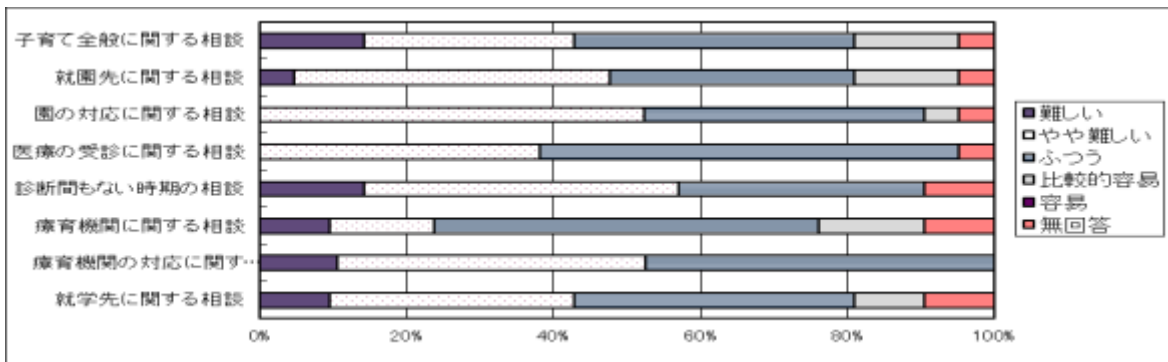


*福岡

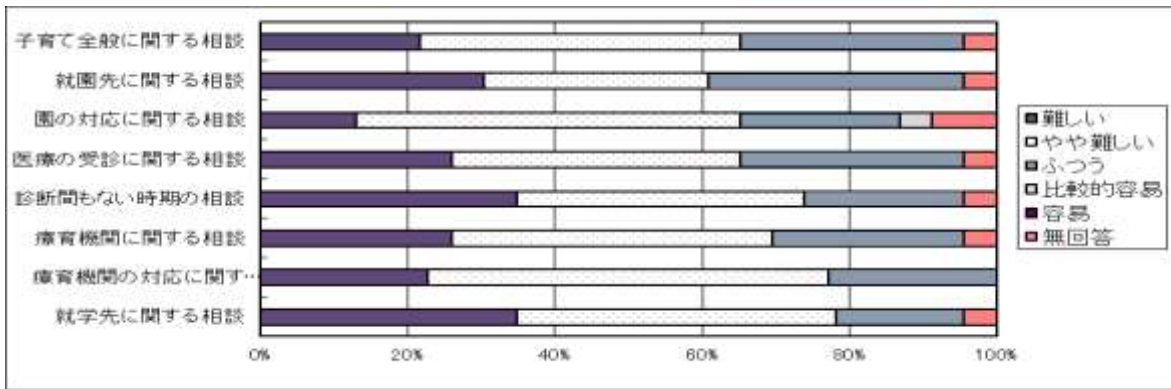


○困難度

*大阪



*福岡



2. 事後アンケート

研修への効果と評価を検討するために、ペアレント・メンター応用研修参加者および一般公開講座参加者に対してアンケートを実施した。それぞれの質問項目について「良くなかった」から「良かった」の5件法で回答を求めた。以下に会場別に結果を報告する。

両会場ともおおむね評価は「良かった」(5点)、もしくはそれに近い段階の評価(4点)に集中しており、研修内容の充実がうかがわれた。今後は、別のスタッフが同じ講義を担当しても、変わらない評価をえられるかどうかなどを検証していきたい。

個々の評価の結果については、下記の通りである。

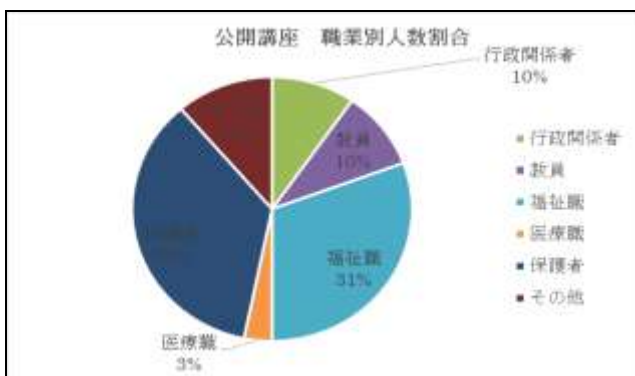
【ペアレント・メンター応用研修：大阪会場】

9月27日公開講座

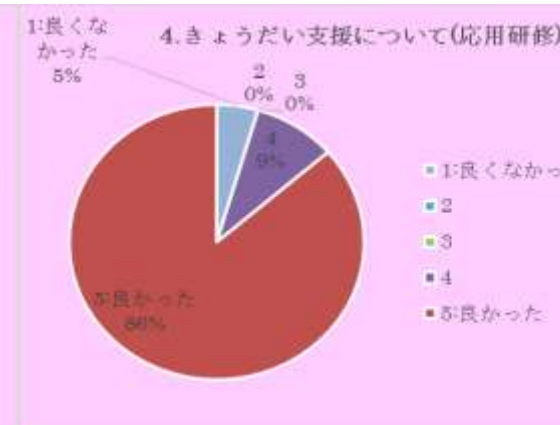
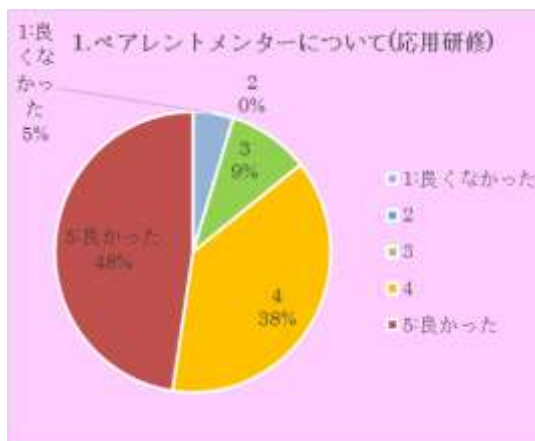
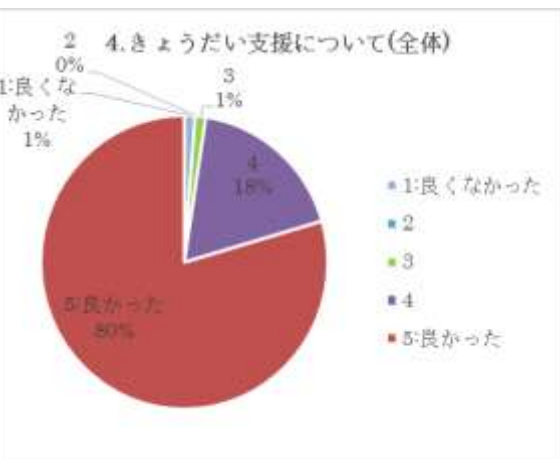
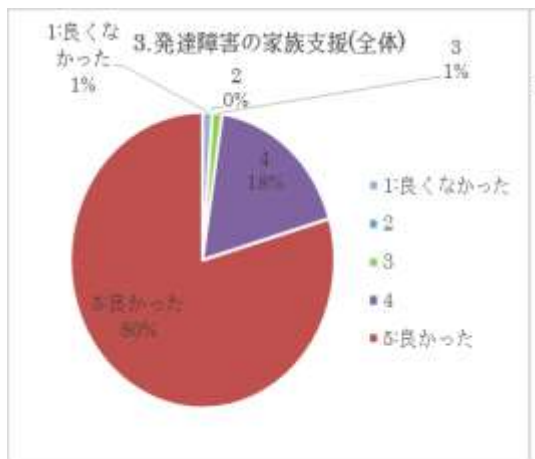
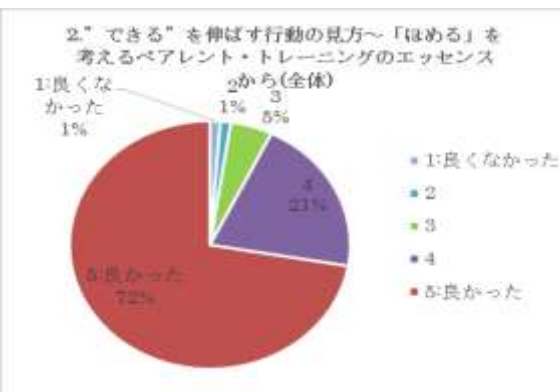
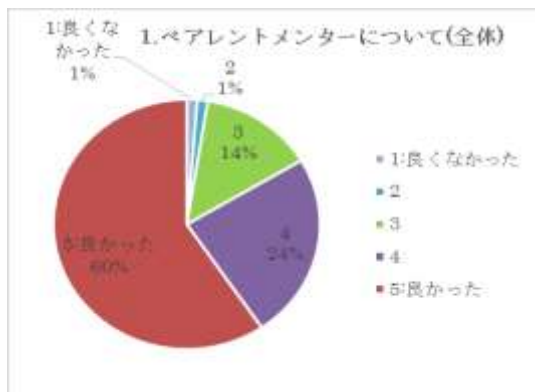
	応用研修	公開講座	全体
参加者	メンター19名見学3名	69名	91名
回答	22名	61名	83名
回収率	100%	88.40%	91.20%
回収率	100%	88.40%	91.20%

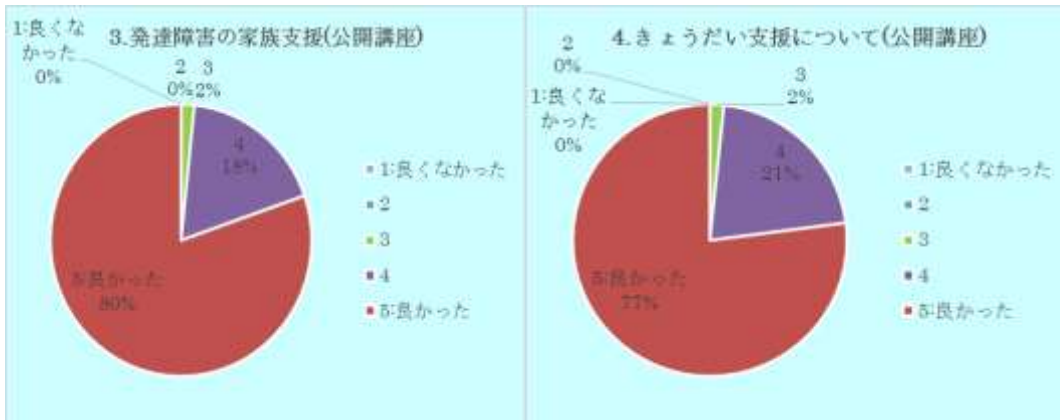
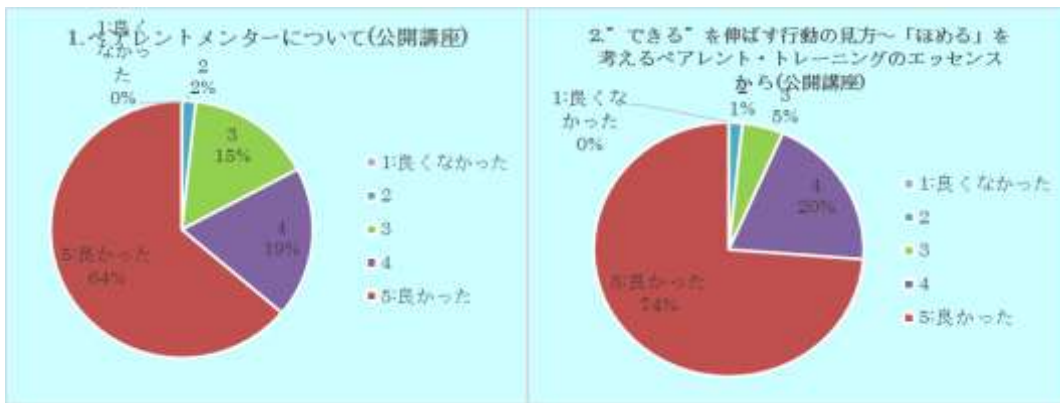
公開講座参加者内訳

職種別人数	行政関係者	教員	福祉職	医療職	保護者	その他
人数(名)	6	6	19	2	22	7

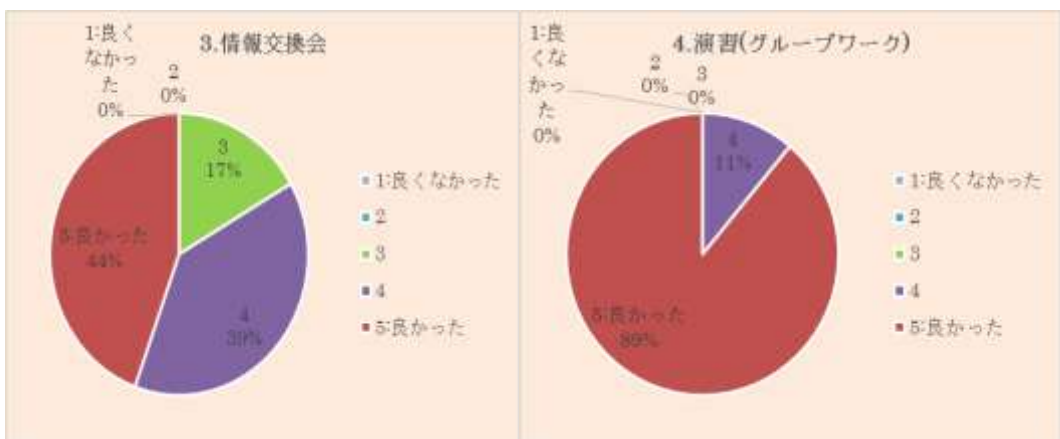
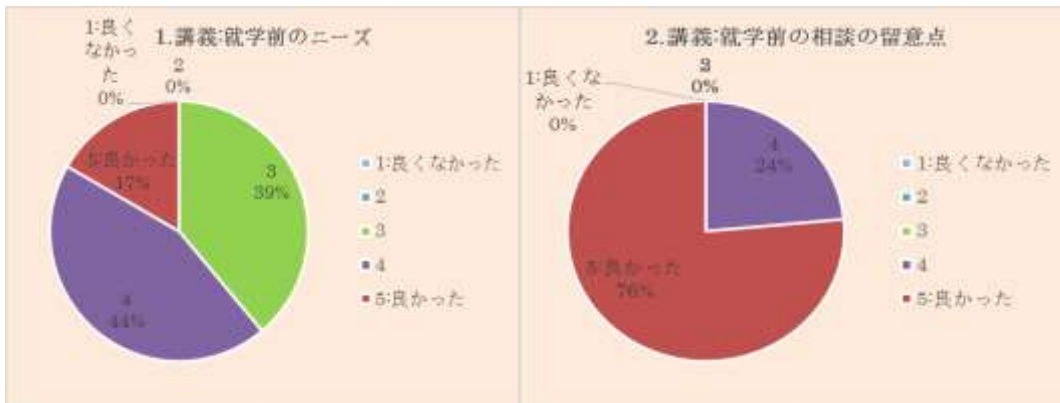


- その他内訳
- ・大学院生(1名)
 - ・学生(1名)
 - ・ジョブサポーター, 学習指導員, 他(1名)
 - ・市民ジョブサポーター(1名)
 - ・保育士(1名)
 - ・不明(2名)



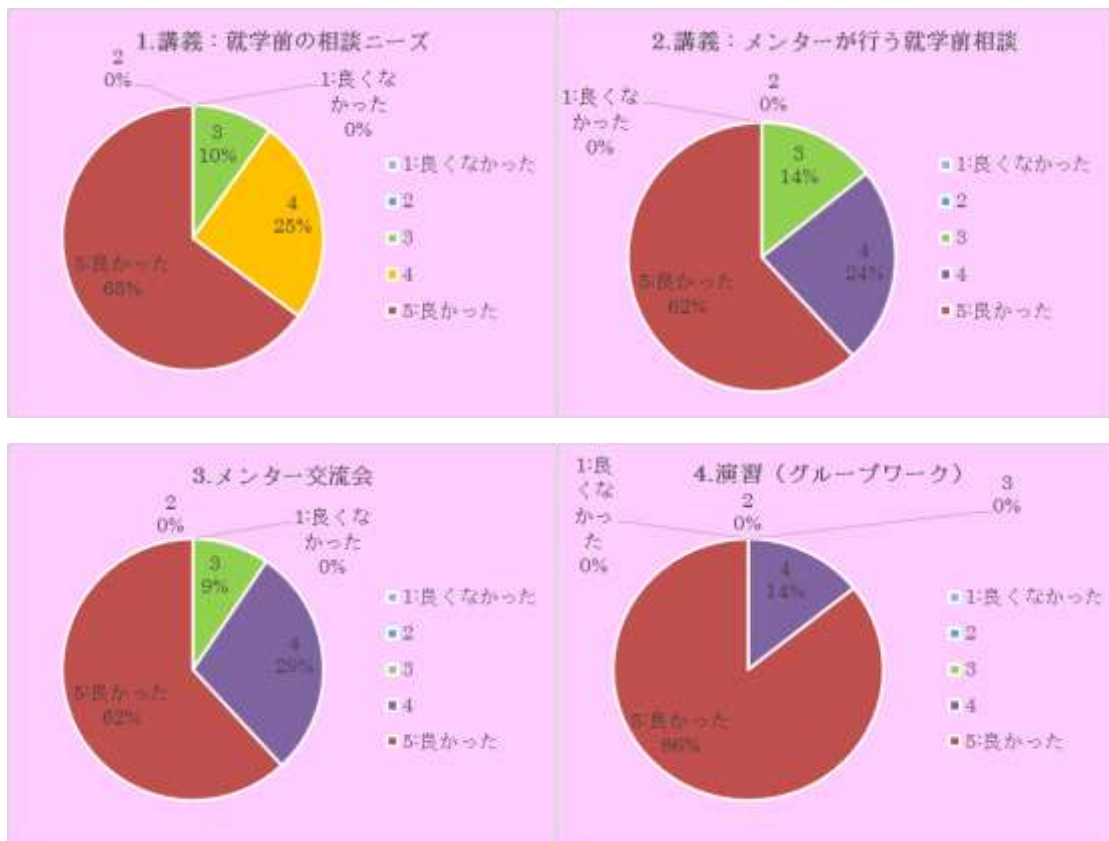


9月28日応用研修



【ペアレント・メンター応用研修：福岡会場】

2月14日応用研修

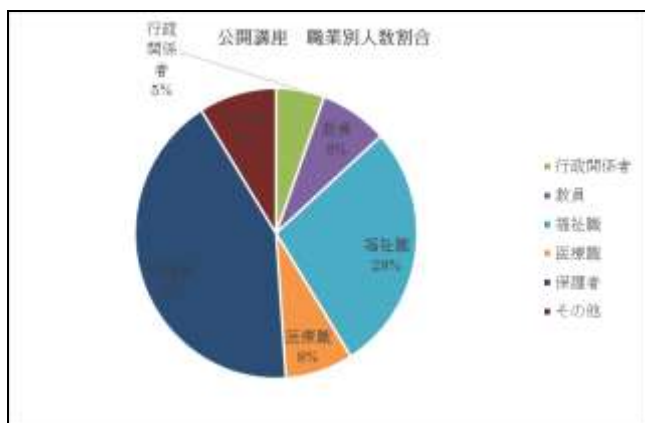


2月15日公開講座

	応用研修	公開講座	全体
参加者	メンター 17 名見学者 2 名	133 名	152 名
回答	19 名	108 名	127 名
回収率	100%	81.2%	83.5%

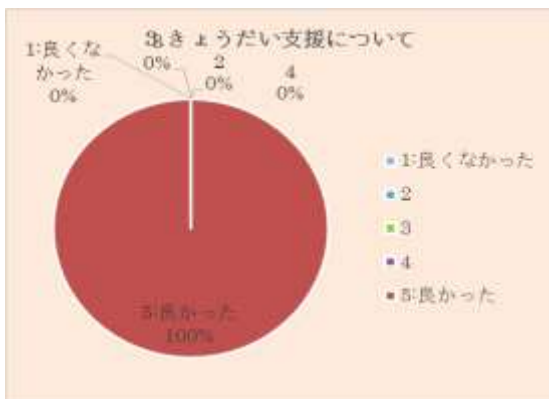
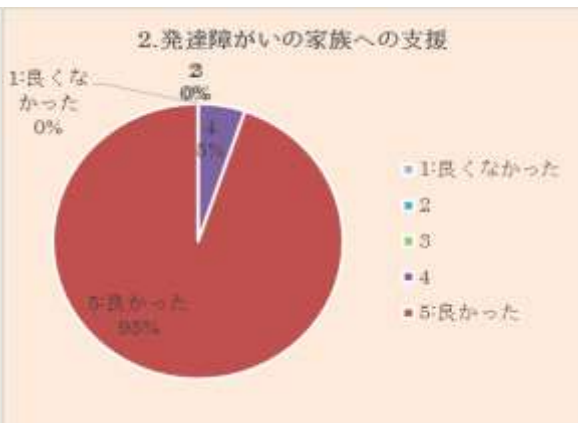
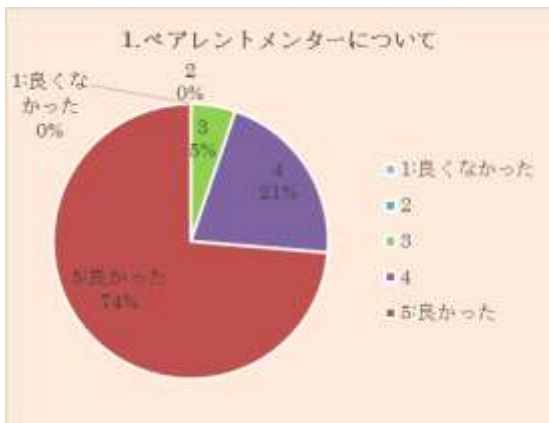
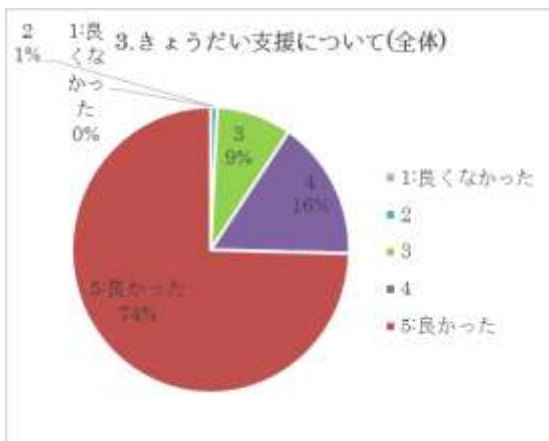
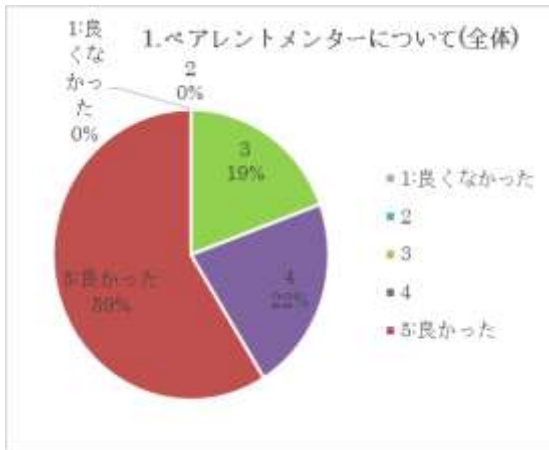
公開講座参加者内訳

職種別人数	行政関係者	教員	福祉職	医療職	保護者	その他
人数(名)	5	7	25	7	38	8



その他内訳

- ・心理職(1名)
- ・支援サークル(1名)
- ・祖母(1名)
- ・祖父(1名)
- ・大学院生(1名)
- ・保育士(1名)
- ・教諭(1名)
- ・支援者(1名)



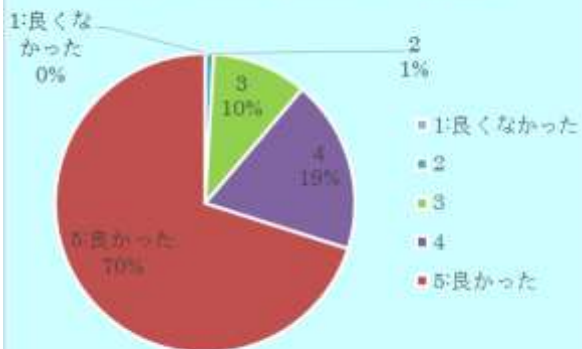
1.ペアレントメンターについて(公開講座)



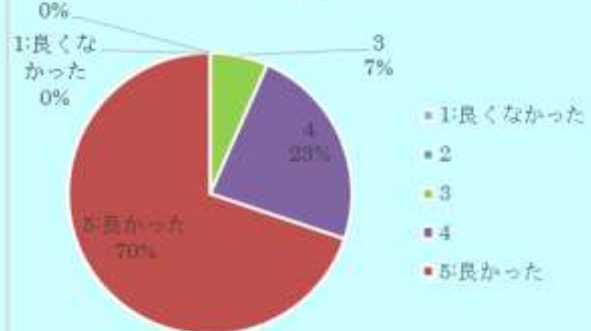
2.発達障がい家族への支援(公開講座)



3.きょうだい支援について(公開講座)



4.お医者さんとの上手な付き合い方(公開講座)



4. 2014 年度全国実態調査進捗状況(中間報告)

1) 調査目的

ペアレント・メンターに関する事業（養成研修および活動）に取り組んでいる各都道府県および政令市の行政担当部局（福祉課，発達障害者支援センター等）を対象に，当該地域のペアレント・メンター事業に関する実態や課題についての聞き取り調査を行うことにより，全国的な動向かつ当該地域の実態と課題を明確にすることを目的とする。そして，それらの知見を基にして，今後のペアレント・メンター養成研修に関する課題や，ペアレント・メンターの活動上の課題を解決するための方策を検討する。今年度は，具体的な調査計画を策定し，半数の地域の調査を行うことを目的とした。

2) 調査計画

調査時期：2014 年 4 月～2015 年 3 月

調査対象：都道府県および政令指定都市の行政担当部局または発達障害者支援センターの担当者

調査者：日本ペアレント・メンター研究会に所属する会員

調査方法：アンケートによる調査と，適宜 1 時間程度のヒアリングを組み合わせる

調査場所：調査対象の担当者と調査者との相談により，担当部局のある建物もしくは研修会場等で実施

調査内容：

1. メンターの基礎情報：メンターの人数，名簿の管理
2. 養成研修：実施年度，主催者，研修日数，研修概要
3. メンター活動：予算，活動内容，メンターの情報交換・協議の場，情報発信，リソースブック，活動報酬，トラブルシューティングの仕組み
4. メンター活動のバックアップ・連携：活動のバックアップ機関
5. コーディネーター：コーディネーターの有無，予算
6. メンター活動を活性化するために必要なこと
7. メンター活動の難しさ，課題，ニーズ
8. その他

3) 調査結果(進捗状況)

計画通り順調に進捗している。今年度は，47 都道府県のうち 29 地域，20 政令指定都市のうち 5 地域，計 34 地域の調査を完了した。

4) 次年度の予定

次年度は，今年度調査を実施できなかった都道府県 18 地域，政令指定都市 15 地域，計 33 地域の調査を実施する。しかしながら，今年度調査を実施できなかった地域の半数以上が，ペアレント・メンター事業を行っていない地域であるため，今年度と同様の内容でのアンケートやヒアリングによる調査を実施することは適していないと思われ，現在，調査内容や方法を検討しているところである。全地域のデータを回収した後，集計および分析を行う。

5. 今後の課題

1) 研修について

本年度は、大阪（関西地域）・福岡（福岡近郊の地域）で応用研修を行い、ペアレント・メンター養成研修後の研鑽の場としての研修の提案を行った。地域の支援機関や専門家にも参加してもらったことで、それぞれの地域で継続的な研修を実施してもらい素地を形成することができたのではないかと考えている。しかしながら、今回の企画運営は共催や後援をいただいたとはいえ、当法人が中心に行ったので、単独で開催するためには課題が残っていると考えられる。次年度以降に地元開催を当法人がサポートするという形をとることで、地域での単独開催が可能になり、地域の実態に合った継続研修が可能になるだろう。

また、今回の実施地域は関西地域、福岡近郊の地域に限られていた。全国的にペアレント・メンター活動を活性化していくためには、もう少し幅広い地域で、地域の実態に合わせた継続的な研修を実施できる素地をつくることが望まれる。今後は、他地域でも、地域のニーズの聞き取りをしながら、本年度と同様の研修を他地域で開催することが必要である。

さらに、ペアレント・メンター活動を活性化していくためには、継続的な実施だけではなく、活動のプランニングや組織体制についてのコンサルテーションも必要であると感じられた。そのため、次年度以降は、ニーズに応じたコンサルテーション活動を充実させていきたい。

2) 全国実態調査

上述したように、本調査は2カ年計画のため、引き続き取り組んでいきたい。また、調査結果のまとめは来年度末にはなるが、調査を行う中で明らかになった地域のニーズに関して、当法人が協力できることに関しては、積極的に取り組み活動の活性化につなげていきたい。

3) 発表

ペアレント・メンター活動を広く知ってもらうためにも、次年度以降も様々な機会をとらえて発表する必要がある。また、メンター活動に関する研究活動も今後活性化していきたい。

6. 最後に

本年度は、日本ペアレント・メンター研究会が法人化して初年度の活動になる。研究会のメンバーは、これまでの全国のペアレント・メンター活動の啓発や養成研修に携わってきっていたが、本年度は活動の活性化に結びつくような取組みを開始することができたのではないかと考えている。

いうまでもなく、発達障害の家族のニーズは家族によっても地域によっても多様である。また、行政や支援機関、医療機関の発達障害への家族支援の取組みも地域によって様々である。そのため、地域ごとの実情をふまえたうえで、ペアレント・メンター活動も展開していく必要がある。その意味で、地域に赴き、地域のメンターや専門家、支援機関の職員と一緒に考えながら、あくまでも地域を主体として取り組む本事業のような活動は、今後も非常に重要である。

今後も、日本ペアレント・メンター研究会としてできることを、一つ一つ取組み、地域のペアレント・メンター活動の活性化、ひいては発達障害への家族支援の充実に寄与していきたい。

平成27年3月

特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会

井上 雅彦

小倉 正義

原口 英之

加藤 香

